

I 校区と学校の概要

1 校区

(1) 石垣島の位置と学区域



(2) 学区域背景

本地区は、屋良部半島とその付け根の部分（トゥマタ）に位置し、観光のスポットでも知られる御神崎には観光客が多く訪れ、風光明媚な地にある。

歴史をひもとくと、寄人制度などによりピーク時には人口500人を越えていた。この頃が崎枝繁昌節に歌われた最盛期であった。その後、明和の大津波やマラリア等の疫病により人口は減少、大正3年には廃村となり無人の地がしばらく続いた。

太平洋戦争も終わりを告げ、猛威を振るったマラリアも撲滅されるに及び、この崎枝の地にも自由移民が各地より参集した。昭和26年9月に正式に崎枝部落が認められ、パインブーム等と相まって半島奥地までくまなく拓かれ耕地となっていた。しかし、祖国復帰の前後に相次いで襲来した台風により大きな被害を受け、さらに本土資本による土地の買い上げにより、耕地を手放し離農、移転していく者が多かった。

現在は、県道(79号線)周辺のトゥマタ部落と学校までの間(1.6km)に点在する世帯で校区が形成されている。

住民は、学校に対して深い愛着と関心を寄せ、平成13年5月の小学校創立50周年記念事業において「明るくたくましく」の碑文を贈り、「明日の崎枝を師弟教育に夢を託し共に力強く歩んでいこう」という先輩方の願いが受け継がれている。